

第 1 2 回 最上川水系流域委員会

議 事 概 要

平成 1 8 年 1 0 月 1 6 日

第12回 最上川水系流域委員会 議事概要

: 委員 : 事務局

河川整備をする場合、普通の河川では親水護岸を設計すると思いますが、赤倉温泉の場合河床から温泉が湧いていることから、何か工夫が必要ではないかという印象を待ったが整備の考え方はあるか。

今の原案ではダムをつくることによって、赤倉温泉地区の河川改修は不要になります。ただし、温泉街から下流地区ではダム調節では足りない箇所があります。そのような箇所は自然に配慮した河川改修を行う考えであります。

穴あきダムの閉塞対策のうちスクリーン設置というのはどのような形状のものですか？

具体的にはこれからの設計で決めます。

上流の砂防ダムの水通し部に枠をつくる方法や穴あきダムの呑み口の前面に設置する方法などがあると思います。

現地を視察して、地形的に大雨があると急激に出水が起こると感じた。赤倉温泉の所はすり鉢の底のようになっており、渓谷が深いため、流木がダムにせき止められた場合、一気に大量の流木・倒木が流れ出ることが懸念されるので、今後十分に検討して頂きたい。

穴あきダムは管理が重要になります。今の案では2m50cmの穴ですが流木による閉塞の可能性はあり得る。スクリーンを付ければその可能性が増すこともあり得る。よって、管理を十分やっていくことが重要である。

小委員会意見の(4)の文言は大変良いメッセージと思いますが、それにつけ加えて、最上町はカルデラ地形であるというような地域の成り立ちを子供たちに教えることも大事だと感じました。

現地視察当日に雨が降り赤倉温泉の所で多少水量も多かったが、大雨が降ったらもっと増水すると聞いて早く対応が必要だと思った。逆に、ダムサイト上流部はとても良い自然景観が広がっていて、出来ればこの自然も残していければ良いと感じた。また、ダム周辺の環境を今後積極的にアピールして欲しい。

今回のダムの型式の名称を流水型か、穴あきダムか統一して欲しい。
このダムを作る経過やポリシーをPRしてほしい。

正式な名称はついていないが、治水専用ダムという呼び方が一番適当と思う。

穴あきダムにいたった経緯について伝えていきたいと思う。

自然にやさしい、動植物にやさしい川づくりに関しては、漁業者として推進していく必要があるため、治水対策については地元漁協の意向も充分取り入れていただきたい。仮に穴あきダム案が最善策であるとするならば、流木対策とか具体的な対応を行って欲しい。

小委員会意見(4)の「子供たちに誇りと安心・安全、豊かな自然を残すために・・・」と書かれているが、この1行があるかないかで随分未来が広がって、違うと思った。この中にもう1つ組入れてほしいのは、子供たちの主体性とか協調性とか、教育の中でただ豊かな自然を残しましたというのではなく、もっと掘り下げて欲しいと思います。洪水により豊かな自然が破壊することもあるので、ダムをつくって良かったという結論が出るようなやり方をしてほしい。

子供の自立という観点で川づくりを進めることを理念としてうたっておいた方が良いと思う。

最上小国川には松原あゆというブランドがある。ダムをつくる場合、そのブランドを傷つけないような作り方が必要ではないか？

前回はダムは百害あって一利なしと申し上げたが、貯留型ダムは濁水の問題や川の水温が低くなり冷水病等の発生が懸念されるので、以前から反対です。仮に穴あきダム案が最善策ということになっても、その機能を低下させないように維持管理はきちんとやっていたいただきたい。

9月11日の説明会以降、住民から何か要望あるいは新たな代替案が浮上したという話がありますか？

インターネット等で意見を受けることにしていたが、ありません。

これまでの説明を聞くと、河道掘削は温泉街では出来ないということで、他案を探っていく余地がだんだん無くなってきたような印象を受けます。

もうこれ以上、新しい案が出てこないのか、あとはそういった案を探ろうとしないのか、ぎりぎりまで他の案が本当はないのかを考えていきたいと思っています。

他に選択肢はあるのですか？

県では平成3年度から調査を始めて、その中でダムと河川改修・放水路と河川改修・河川改修のみの3案で検討して参りました。我々としてはこの3案しか治水対策としての方法がないと考えています。その中でダム案によるしかないのではないかと考えております。

相対立する意見、これのどちらを選択するのかということを議論したつもりはなく、技術的に解決可能かどうかという観点から、今回の問題をなるべく技術的に解決したいという思いで小委員会の意見をまとめたわけです。

また、国にもお願いしなければならないのかもしれませんが、影響あるかどうかわからないのに、何か構造物を作るということは今の制度のもとでは難しい。農業では「みためし」という言葉があって、はっきりしない場合はその試行錯誤を繰り返しながら構造物を作っていくという手法もありましたので、この試みを小国川でやれたら非常にありがたいと思います。

技術的に定量的に影響を予測していくということは非常に難しく、不確定性のところに投資をどの程度していくか大変難しい。特にこのダムにつきましては十分な議論の中でその過程を踏んできたということなので、国としても相談に応じていきたいと考えております。

今回の意見書を見るとかなり細部にわたって議論されているようですので、小委員会の意見を踏まえながら、現在の案が最良の方法と思います。

このダムは災害防止という観点からやらざるを得ない。これが来年度の予算に間に合うように、この委員会で小委員会を了承するという結論を出して頂きたい。

小委員会がいろいろな視点から議論されていること。これだけ丁寧に議論されている小委員会はないのではないかと。この事業によって助かる人、待っている人がたくさんいるわけですから、これが早く実現する工夫が必要ではないか。

ダムを作ってしまったら完成ではなく、管理も含めて長い間みていただきたい。また、実際にやってみると思いもしなかったことが起こると思うが、それも踏まえてもっと時間をかけて見ていただけると非常にいいと思う。

全体の基調からすると、小委員会でまとめて頂いた意見の声が現時点では最善で、これに沿って進めていっていいのではないかとご意見が多数であったと思います。ただ、委員の方からの意見にあったように、計画ができたからそれで終わりではなく、実施計画の段階、事業が進んでいくプロセスの中で常にフィードバックしながらいい環境づくりに励んで頂きたい。

小委員会の報告に対して何か付け加えるとすれば、先程意見のあった「理念をもう少し反映する」、「これからのプロセスが重要」であるというようなことを中に入れていったら良いと思います。

いま、委員の方から2点ほどまとめてございますが、一つはプロセスの問題ということとございました。これは管理を継続して初期の目的、治水の安全度と環境の両立を図

っていくということでございますか。それから、子供たちもこういった環境、治水ということについて学んでいくべきではないか、という趣旨でしょうか。

一流の河川に一流のサポーターが必要なように、子供たちだけでなく大人も一緒に社会的サポートを住民サイドでしていきましょうという呼びかけが必要でないかと思えます。

確認しておきたいのですが、今日の各委員の意見では、最上地区小委員会の意見書に大きな反対はないようですが、どうでしょうか？

委員会の意見書については、小委員会の意見書を基本的に了承することでよろしいですね。その上で、今日議論頂いたご意見を簡潔に取りまとめ知事に提出することになると思います。その文言については私と副委員長にお任せいただいて、後日委員の皆様に報告します。

山形県におかれましては、受け取った意見書を最上小国川の河川整備計画に十分活かして頂きたいと思えます。